

塩 竈 市 立 病 院 事 業 会 計

I 予算の執行状況

1 収益的収入及び支出

1) 収 入

(単位:円、%)

区 分	予 算 現 額	うち法第24条第3項 の規定による支出額 に係る財源充当額	決 算 額	予 算 額 に 比 べ 決 算 額 の 増 減	執 行 率
病院事業収益	3,224,243,000	0	3,029,090,956	△195,152,044	93.94
医 業 収 益	2,857,162,000	0	2,665,513,656	△191,648,344	93.29
医 業 外 収 益	366,081,000	0	363,310,300	△ 2,770,700	99.24
特 別 利 益	1,000,000	0	267,000	△733,000	26.70

(注) 決算額は消費税を含んだ金額である。

2) 支 出

(単位:円、%)

区 分	予 算 現 額	決 算 額	翌 年 度 繰 越 額	不 用 額	執 行 率
病院事業費用	3,223,670,000	3,169,227,703	0	54,442,297	98.31
医 業 費 用	3,170,636,000	3,116,582,603	0	54,053,397	98.29
医 業 外 費 用	51,058,000	50,669,374	0	388,626	99.23
特 別 損 失	1,976,000	1,975,726	0	274	99.98

(注) 決算額は消費税を含んだ金額である。

① 収益的収入

予算現額3,224,243,000円に対し、決算額3,029,090,956円で、執行率93.94%となっている。

② 収益的支出

予算現額3,223,670,000円に対し、決算額3,169,227,703円で、執行率98.31%となり、54,442,297円の不用額が生じ決算されている。

主な不用額をみると材料費で17,489,561円、経費で15,337,715円などである。

2 資本的収入及び支出

1) 収 入

(単位:円、%)

区 分	予 算 現 額	うち法第26条の繰越額 に係る財源充当額	決 算 額	予算額に比べ 決算額の増減	執 行 率
資 本 的 収 入	203,342,000	0	199,641,000	△3,701,000	98.17
他会計補助金	85,471,000	0	85,471,000	0	100.00
企 業 債	107,800,000	0	104,100,000	△3,700,000	96.56
県 補 助 金	10,071,000	0	10,070,000	△1,000	99.99

(注) 決算額は消費税を含んだ金額である。

2) 支 出

(単位:円、%)

区 分	予 算 現 額	うち法第26条の規定 による繰越額	決 算 額	翌 年 度 繰 越 額	不 用 額	執 行 率
資 本 的 支 出	275,545,000	0	271,858,772	0	3,686,228	98.66
建設改良費	122,271,000	0	118,585,469	0	3,685,531	96.98
企業債償還金	153,274,000	0	153,273,303	0	697	99.99

(注) 決算額は消費税を含んだ金額である。

① 資本的収入

予算現額 203,342,000 円に対し、決算額 199,641,000 円で、執行率 98.17%となっている。

② 資本的支出

予算現額 275,545,000 円に対し、決算額 271,858,772 円で、執行率 98.66%となっている。

建設改良費は、施設購入費として 64,806,469 円、施設改良費として 53,779,000 円である。

施設購入費の内訳は、遺伝子解析装置 (9,350,000 円)、高周波手術装置 (6,985,000 円)、上部消化管汎用ビデオスコープ (6,974,000 円) 等、施設改良費の内訳は、令 6 一単 市立病院 GHP (GHP-1 系統) 改修工事 (28,600,000 円)、外来待合室他什器等更新提案・調達・設置業務委託 (21,989,000 円) 等である。

なお、資本的収入額が資本的支出額に対し不足する額 72,217,772 円は、当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額 10,533,679 円、過年度損益勘定留保資金 61,684,093 円をもって補てんしている。

Ⅱ 経 営 成 績

令和2年度から令和6年度までの経営成績は、次表のとおりで、消費税を除いた本年度の収益的収支差引額は142,844,544円の純損失を生じて決算された。

なお、以下の計数については、消費税を除いたものである。

1 総収益と総費用

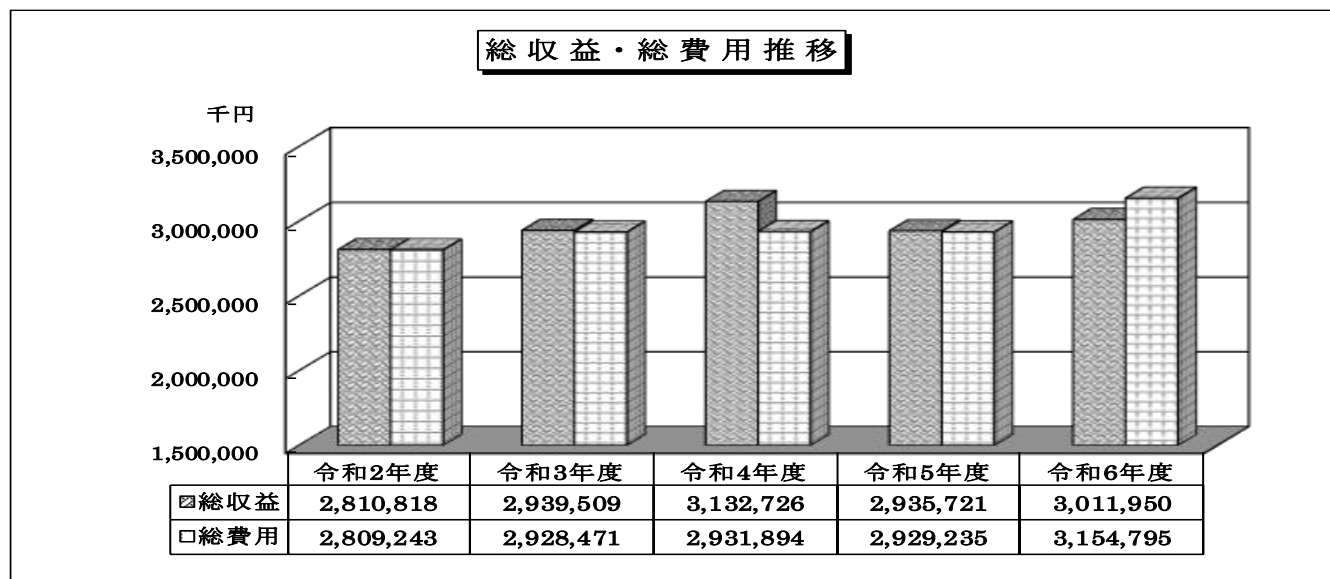
総収益・総費用すう勢比率表

(単位:円、%)

区分 年度	総 収 益		総 費 用		収支差引額 (A) - (B)	収支比率 (A) / (B)
	金 額 (A)	すう勢比率	金 額 (B)	すう勢比率		
令和2年度	2,810,817,513	100.0	2,809,243,347	100.0	1,574,166	100.1
令和3年度	2,939,508,653	104.6	2,928,470,664	104.2	11,037,989	100.4
令和4年度	3,132,725,691	111.5	2,931,893,823	104.4	200,831,868	106.8
令和5年度	2,935,720,944	104.4	2,929,234,649	104.3	6,486,295	100.2
令和6年度	3,011,950,251	107.2	3,154,794,795	112.3	△ 142,844,544	95.5

(注) すう勢比率は令和2年度を基準年度とする。

また、令和2年度以降の総収益、総費用の推移を図で表すと以下のとおりである。



本年度の総収支の状況は、令和2年度を比率100としたすう勢比率でみると、総収益は前年度と比べ2.8ポイント上回った107.2%、総費用は8.0ポイント上回った112.3%となった。

また、収支比率は前年度と比べ4.7ポイント下回った95.5%となり、収支差引では142,844,544円の純損失となった。

2 収 益

次に収益の内容を前年度と比較してみると次表のとおりである。

収 益 比 較 表

(単位:円、%)

年 度 区 分		令 和 6 年 度		令 和 5 年 度		対 前 年 度 比 較	
		金 額	構成比	金 額	構成比	増 減 額	増減率
医 業 収 益	入 院 収 益	1,578,713,056	52.4	1,526,735,801	52.0	51,977,255	3.4
	外 来 収 益	718,678,816	23.9	719,644,159	24.5	△965,343	△0.1
	そ の 他 医 業 収 益	352,554,840	11.7	346,197,427	11.8	6,357,413	1.8
	計	2,649,946,712	88.0	2,592,577,387	88.3	57,369,325	2.2
医 業 外 収 益	他 会 計 負 担 金	155,324,000	5.2	131,204,000	4.5	24,120,000	18.4
	他 会 計 補 助 金	63,301,000	2.1	68,542,000	2.3	△5,241,000	△7.6
	患 者 外 給 食 収 益	1,008,456	0.0	705,104	0.0	303,352	43.0
	そ の 他 医 業 外 収 益	15,524,759	0.5	17,104,120	0.6	△1,579,361	△9.2
	県 補 助 金	2,303,200	0.1	12,941,000	0.4	△10,637,800	△82.2
	長 期 前 受 金 戻 入	124,275,124	4.1	112,396,892	3.8	11,878,232	10.6
	計	361,736,539	12.0	342,893,116	11.7	18,843,423	5.5
特 別 利 益	過 年 度 損 益 修 正 益	267,000	0.0	250,441	0.0	16,559	6.6
	計	267,000	0.0	250,441	0.0	16,559	6.6
合 計		3,011,950,251	100.0	2,935,720,944	100.0	76,229,307	2.6

収益の内容を前年度と比較してみると、収益合計で76,229,307円 の増収となっている。

これは、医業収益は57,369,325円 (2.2%) の増となった他、医業外収益で他会計負担金や長期前受金戻入の増などにより18,843,423円 (5.5%) の増収となったためである。

入院及び外来患者の年延患者数の推移をみると次表のとおりである。

年 延 患 者 数 の 推 移

(単位:人、%)

区 分	令和6年度	令和5年度	対前年度比率	令和4年度	令和3年度	令和2年度
年延入院患者数	41,549	41,807	99.4	42,409	42,900	41,891
年延外来患者数	56,059	56,839	98.6	58,797	58,169	55,144
合 計	97,608	98,646	98.9	101,206	101,069	97,035

本年度の年延入院患者数は41,549人、一日平均113.8人で、前年度から延患者数258人、一日平均0.4人減少した。年延外来患者数は56,059人、一日平均230.7人で、前年度から延患者数780人、一日平均3.2人の減少となっている。

次に患者一人一日当りの診療収入など本市と年鑑指標をみると次表のとおりである。

区 分	令和6年度	令和5年度	対前年度比較増減	令和5年度年鑑指標
患者一人一日当り診療収入 (円)	23,537	22,772	765	30,427
〃 入院収入 (円)	37,996	36,519	1,477	56,165
〃 外来収入 (円)	12,820	12,661	159	15,808
外来入院患者比率 (%)	134.9	136.0	△1.1	176.1
病床利用率 (%)	70.7	70.9	△0.2	70.6

(注) 年鑑指標とは「地方公営企業年鑑」病院・経営主体・市の令和5年度全国平均値である。

本年度の患者一人一日当りの入院と外来の診療収入を前年度と比較すると、外来収入は12,820円で159円(1.3%)上回っているほか、入院収入は37,996円で1,477円(4.0%)上回っている。また、年鑑指標と比較すると、入院収入で18,169円(32.3%)、外来収入でも2,988円(18.9%)下回っている。

外来入院患者比率(年延外来患者数÷年延入院患者数)をみると、前年度に比べ1.1ポイント、病床利用率(年延入院患者数÷年延総病床数×100)についても0.2ポイント下回っている。(審査資料別表9参照)

3 費 用

費 用 比 較 表

(単位:円、%)

年度 区 分	令 和 6 年 度		令 和 5 年 度		対 前 年 度 比 較	
	金 額	構成比	金 額	構成比	増 減 額	増減率
医 業 費 用	3,057,329,212	96.9	2,811,366,559	96.0	245,962,653	8.7
医 業 外 費 用	95,494,820	3.0	111,417,443	3.8	△15,922,623	△14.3
特 別 損 失	1,970,763	0.1	6,450,647	0.2	△4,479,884	△69.4
合 計	3,154,794,795	100.0	2,929,234,649	100.0	225,560,146	7.7

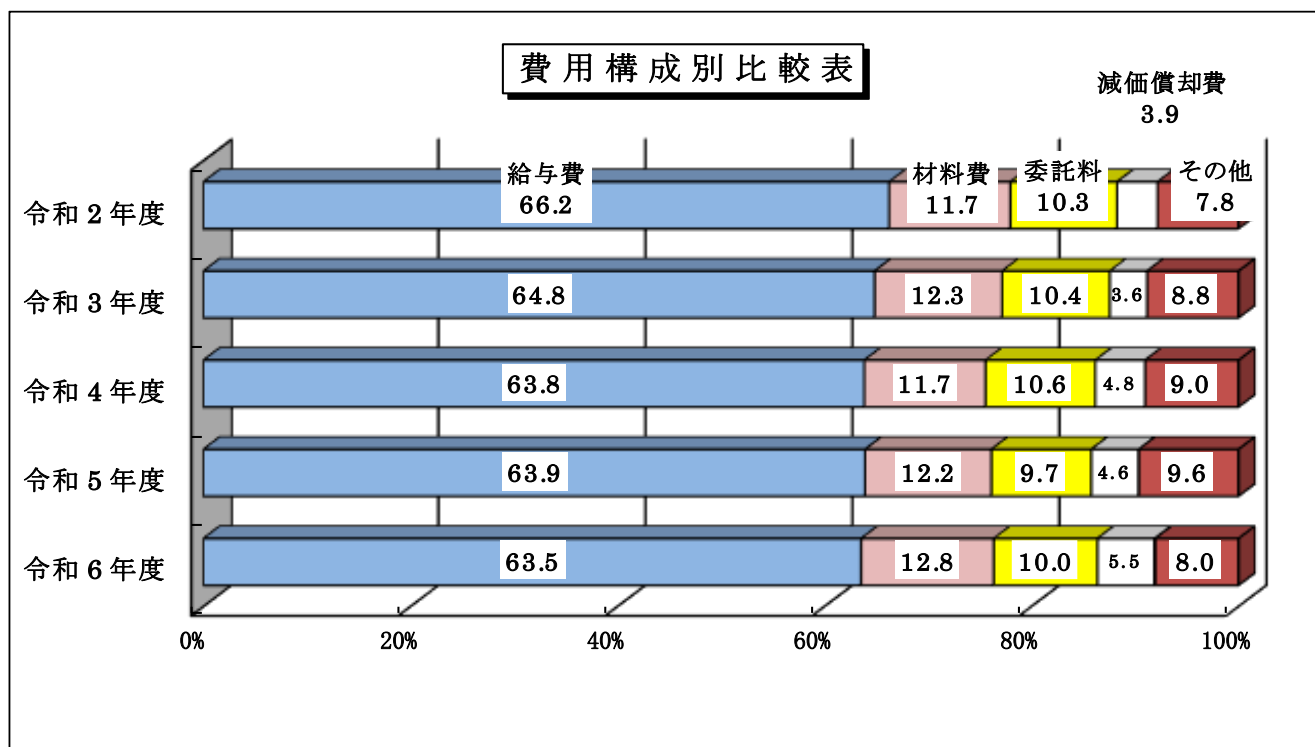
費用を前年度と比較してみると、医業外費用で 15,922,623 円 (14.3%)、特別損失で 4,479,884 円 (69.4%) 減少したが、医業費用で 245,962,653 円 (8.7%) 増加したことにより、費用合計で 225,560,146 円 (7.7%) 増加している。また、医業費用の増加については、主に給与費や材料費などで、特別損失については、過年度損益修正損の減少によるものである。(審査資料別表 10・11 参照)

これを構成別で比較してみると次表のとおりである。

費 用 構 成 別 比 較 表

(単位:円、%)

年度 区 分		令和 6 年 度		令和 5 年 度		対 前 年 度 比 較	
		金 額	構成比	金 額	構成比	増 減 額	増減率
給 与 費		2,004,150,820	63.5	1,872,997,029	63.9	131,153,791	7.0
材 料 費		405,184,191	12.8	357,387,815	12.2	47,796,376	13.4
委 託 料		315,971,238	10.0	282,680,949	9.7	33,290,289	11.8
減 価 償 却 費		174,757,749	5.5	133,686,509	4.6	41,071,240	30.7
支 払 利 息		2,625,844	0.1	1,271,599	0.0	1,354,245	106.5
そ の 他	賃 借 料	26,226,666	0.8	26,538,628	0.9	△311,962	△1.2
	光 熱 水 費	64,257,197	2.0	61,909,238	2.1	2,347,959	3.8
	修 繕 費 ・ 工 事 費	19,442,222	0.6	20,254,262	0.7	△812,040	△4.0
	そ の 他	142,178,868	4.5	172,508,620	5.9	△30,329,752	△17.6
	計	252,104,953	8.0	281,210,748	9.6	△29,105,795	△10.4
合 計		3,154,794,795	100.0	2,929,234,649	100.0	225,560,146	7.7



構成別で前年度より増加した主なものは、給与費で 131,153,791 円 (7.0%) 等である。一方、減少した主なものは、その他の費用で 30,329,752 円 (17.6%) である。なお、その他の費用のうち主なものは雑損失で 17,604,313 円 (16.1%) 等である。(審査資料別表 10・11 参照)

4 経営状況

病院事業の経済性を示す一つの指標として、総資本利益率等を求めれば次表のとおりである。

区分	令和 6 年度	令和 5 年度	令和 5 年度 年鑑指標	算式
総資本利益率 (%)	△6.64	0.61	0.40	$\frac{\text{当年度経常利益}}{\text{年平均総資本}} \times 100$
総資本回転率 (回)	1.25	1.24	0.59	$\frac{\text{医業収益}}{\text{年平均総資本}}$
医業収益利益率 (%)	△5.33	0.49	0.69	$\frac{\text{当年度経常利益}}{\text{医業収益}} \times 100$

(注) ・総資本＝負債資本合計

・年平均総資本＝(期首総資本＋期末総資本)÷2

・総資本利益率(経營業績、収益性を示し、比率の高いほど投下資本が効率的に運用されていることを表す)

・総資本回転率(高いほど収益をあげるため総資本を効率的に活用したことを表す)

・医業収益利益率(医業収益に対する経常利益の割合を示す)

総資本利益率は前年度より 7.25 ポイント下回っている。これは、当年度経常利益が 153,827,282 円 (1,212.5%) 減少したことによるものである。これを総資本回転率と医業収益利益率とに分解してみると、総資本回転率は 0.01 ポイント上回っており、医業収益利益率で 5.82 ポイント下回っている。

次に経営状態の良否を判断するため、収支比率を求めれば次表のとおりである。

区 分	令 和 6 年 度	令 和 5 年 度	令 和 5 年 度 年 鑑 指 標	算 式
医 業 収 支 比 率 (%)	86.68	92.22	89.49	$\frac{\text{医 業 収 益}}{\text{医 業 費 用}} \times 100$
経 常 収 支 比 率 (%)	95.52	100.43	96.23	$\frac{\text{医業収益} + \text{医業外収益}}{\text{医業費用} + \text{医業外費用}} \times 100$
総 収 支 比 率 (%)	95.47	100.22	96.14	$\frac{\text{総 収 益}}{\text{総 費 用}} \times 100$

(注) 年鑑指標とは「地方公営企業年鑑」病院・経営主体・市の令和5年度全国平均値である。

比率はいずれも高いほど経営状態は良好であることを表す。

総収支比率（総体的経営活動の能率を示す）では、前年度より 4.75 ポイント下回っている。また、医業収支比率（医業活動の能率を示す）で 5.54 ポイント、経常収支比率（通常の病院活動の能率を示す）で 4.91 ポイント下回っている。

Ⅲ 財 政 状 態

令和6年度末の財政状態は、審査資料別表12に示すとおりである。

また、資金の変動状況を活動区分別に表示するキャッシュ・フロー計算書は次表のとおりである。

キャッシュ・フロー計算書比較表

(単位:円)

区 分	令 和 6 年 度	令 和 5 年 度	対前年度比較増減
1 業務活動によるキャッシュ・フロー	△142,797,603	294,162,345	△436,959,948
2 投資活動によるキャッシュ・フロー	△97,981,790	△355,006,600	257,024,810
3 財務活動によるキャッシュ・フロー	36,297,697	322,434,628	△286,136,931
資金増加額(1+2+3)	△204,481,696	261,590,373	△466,072,069
資金期首残高	293,465,788	31,875,415	261,590,373
資金期末残高	88,984,092	293,465,788	△204,481,696

(注) 審査資料別表13参照

本年度の資金期末残高は、前年度末より 204,481,696 円減少し 88,984,092 円となっている。

その内容を区分ごとにみると、業務活動によるキャッシュ・フローは、当年度純損失が生じたこと等により、前年度より 436,959,948 円減少し△142,797,603 円となっている。

投資活動によるキャッシュ・フローは、前年度より 257,024,810 円増加し△97,981,790 円となっている。これは、建設改良費の施設改修工事及び器械備品購入等に伴う支出によるものである。

財務活動によるキャッシュ・フローは、建設改良等の財源に充てるための企業債による収入の減少などにより、前年度より 286,136,931 円減少し、36,297,697 円となっている。

次に、財政状態の良否を示す一つの指標として、財務比率を求めれば次表のとおりである。

財 務 比 率

(単位:%)

区 分	令和6年度	令和5年度	令和4年度	令和5年度 年鑑指標	算 式
流 動 比 率	89.59	129.85	136.30	234.80	$\frac{\text{流 動 資 産}}{\text{流 動 負 債}} \times 100$
自 己 資 本 構 成 比 率	39.16	42.37	49.73	39.45	$\frac{\text{資 本 金} + \text{剰 余 金} + \text{評 価 差 額 等} + \text{繰 延 収 益}}{\text{負 債 資 本 合 計}} \times 100$
固 定 資 産 対 長 期 資 本 比 率	104.06	90.80	89.37	78.54	$\frac{\text{固 定 資 産}}{\text{資 本 金} + \text{剰 余 金} + \text{評 価 差 額 等} + \text{固 定 負 債} + \text{繰 延 収 益}} \times 100$

(注) ・流動比率（短期支払能力を示す） ・自己資本構成比率（経営の安全性を示す）

・固定資産対長期資本比率（固定資産の調達状態を示す）

令和6年度の決算を前年度と比較すると、流動比率で40.26ポイント、自己資本構成比率で3.21ポイント下がっている。また、固定資産対長期資本比率で13.26ポイント上回っている。

IV 病院経営強化プラン数値目標との比較

令和6年度から令和9年度までを計画期間として、「塩竈市立病院経営強化プラン」が策定された。経営に係る数値を中心にした今年度の決算数値と数値目標との比較は、次表に示すとおりである。

経営指標に係る数値目標

区 分					年 度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
収益確保に係るもの	1	病床利用率	(%)	決算数値	70.7				
				数値目標	80.7	80.7	80.7	80.7	
				計画との差	△ 10.0				
	2	入院 1日当り患者数	(人/日)	決算数値	113.8				
				数値目標	130.0	130.0	130.0	130.0	
				計画との差	△ 16.2				
	3	患者1人1日当り診療収益	(円)	決算数値	37,996				
				数値目標	35,750	35,750	35,750	35,750	
				計画との差	2,246				
	4	外来 1日当り患者数	(人/日)	決算数値	230.7				
				数値目標	260.1	260.1	260.1	260.1	
				計画との差	△ 29.4				
	5	患者1人1日当り診療収益	(円)	決算数値	12,820				
				数値目標	11,100	11,100	11,100	11,100	
				計画との差	1,720				
経費削減に係るもの	6	職員給与費対修正医業収益比率 (会計年度任用職員を除く)	(%)	決算数値	60.7				
				数値目標	57.4	57.1	57.4	57.2	
				計画との差	3.3				
		職員給与費対修正医業収益比率 (会計年度任用職員を含む)	(%)	決算数値	68.1				
				数値目標	64.3	64.0	64.3	64.0	
				計画との差	3.8				
	7	材料費対修正医業収益比率	(%)	決算数値	16.5				
				数値目標	14.5	14.5	14.6	14.5	
				計画との差	2.0				
	8	薬品費対修正医業収益比率	(%)	決算数値	11.5				
				数値目標	9.4	9.4	9.4	9.4	
				計画との差	2.1				
	9	委託費対修正医業収益比率	(%)	決算数値	12.9				
				数値目標	12.7	12.7	12.7	12.6	
				計画との差	0.2				
	10	後発医薬品の使用割合	(%)	決算数値	95.0				
				数値目標	94.5	94.5	94.5	94.5	
				計画との差	0.5				
経営の安定性に係るもの	11	常勤医師数	(人)	決算数値	15				
				数値目標	15	15	15	15	
				計画との差	0.0				

経常収支比率及び修正医業収支比率に係る数値目標

区 分 \ 年 度				令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
1	経常収支比率	(%)	決算数値	95.5			
			数値目標	100.6	101.1	100.9	100.9
			計画との差	△ 5.1			
2	医業収支比率	(%)	決算数値	86.7			
			数値目標	91.7	91.9	91.9	92.1
			計画との差	△ 5.0			
3	修正医業収支比率	(%)	決算数値	80.2			
			数値目標	85.2	85.3	85.3	85.5
			計画との差	△ 5.0			

塩竈市立病院経営強化プランの数値目標を決算数値と比較すると、入院及び外来での患者1人1日当り診療収益、後発医薬品の使用割合で目標値を達成したが、そのほかの数値については目標値に達しなかった。

V むすび

市立病院事業会計決算の概要は以上のとおりである。

患者数を前年度と比較すると、入院患者数は 258 人(0.6%)減の 41,549 人、外来患者数は 780 人(1.4%)減の 56,059 人となり、病床利用率は前年度の 70.9%から 0.2 ポイント減の 70.7%となっている。

収益的収支を前年度と比較すると、総収入で 76,229,307 円(2.6%)増の 3,011,950,251 円、総支出では 225,560,146 円(7.7%)増の 3,154,794,795 円で収支差引 142,844,544 円の純損失となった。

総収益の増の内訳は、医業収益は外来収益で 965,343 円(0.1%)の減となったが、全体では 57,369,325 円(2.2%)の増となり、医業外収益は県補助金 10,637,800 円(82.2%)などが減となったが、全体では 18,843,423 円(5.5%)の増となっている。

総費用の増の内訳は、医業費用の給与費で 131,153,791 円(7.0%)、材料費で 47,796,376 円(13.4%)、委託料で 33,290,289 円(11.8%)などである。

資本的収支を前年度と比較すると、総収入では 294,887,000 円(59.6%)減の 199,641,000 円、総支出では 292,582,760 円(51.8%)減の 271,858,772 円となっている。総収入減の主な内訳は、企業債によるものであり、総支出減の主な内訳は施設購入費及び施設改良費の減によるものである。

本年度の市立病院事業は、前年度に比べ収入が増となったものの、それを上回る支出の増により、平成 28 年度以来の当年度純損失を計上した。

令和 6 年度よりスタートした塩竈市立病院経営強化プランの数値目標に対し、収益確保に係るものでは、患者 1 人 1 日当たり診療収益(入院・外来)で、経費削減に係るものでは、後発医薬品の使用割合で目標に達したが、それ以外に関しては、いずれも数値目標に達していないことから、2 年目以降の目標達成に向けたさらなる努力を期待したい。

今後も老朽化した施設の整備への対応、各医療機器の更新費用の増加など厳しい経営状況が続くと予想される。地域に必要とされる医療を継続していくため、患者数の増加策など病院経営の健全化、安定運営に向けてなお一層努力されたい。